

ME 決勝コースのルート検討

コースセッター 西村徳真

はじめに

第6回全日本スプリントにご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

本来ルート検討を行うつもりはありませんでしたが、入賞した松澤氏・真保氏からぜひともルートの共有をしたいという申し出をされ、入賞者全員のルートをまとめたコピー地図を手渡されました。プランナーとして大変うれしいことでもあり、また今後の日本のスプリント競技に対するレベルアップのためにも有意義なことであるため、本稿を記述し公開する次第です。

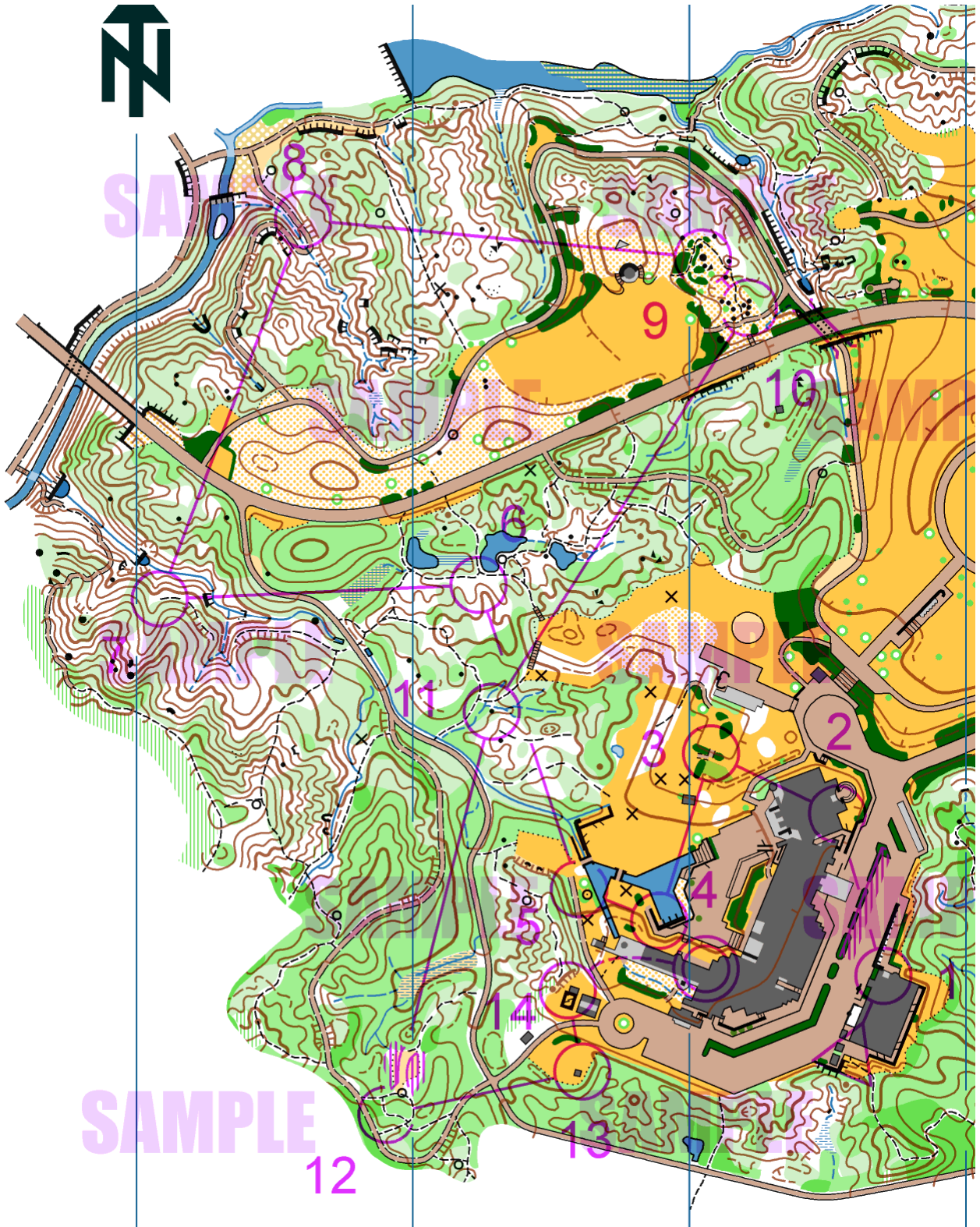
上記の経緯から、本稿ではMEクラスのための記述とさせていただきます。ご了承ください。なお、WEクラスについても申し出がありましたら喜んで対応させていただきますので、もしよろしければルート図を西村までご送付ください。

おことわり

- ・本稿では選手の敬称を省略させていただきます。ご了承ください。
- ・各選手のルートは、議論を簡単にするためにいくつかグルーピングしています。そのため、実際に通ったルートとは厳密には一致しません。ご了承ください。

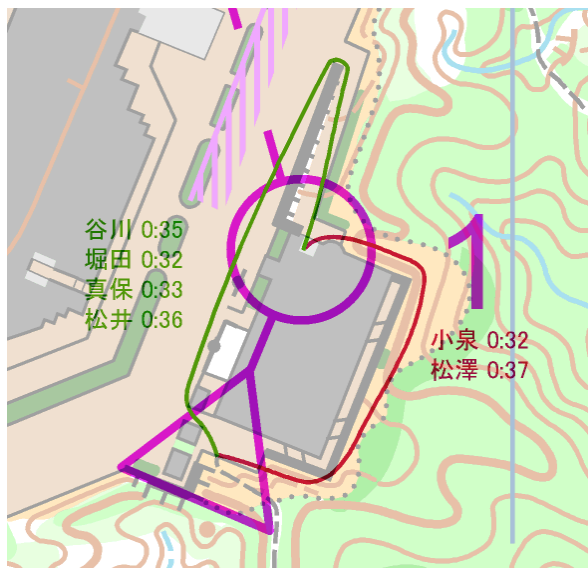
コース図

解説に入る前に、コースの全体図を掲載します。ぜひ「自分ならどれを選択するか」を考え、自分なりの答えを出してから以降の解説をお読みください。



レッグ別解説

△→1

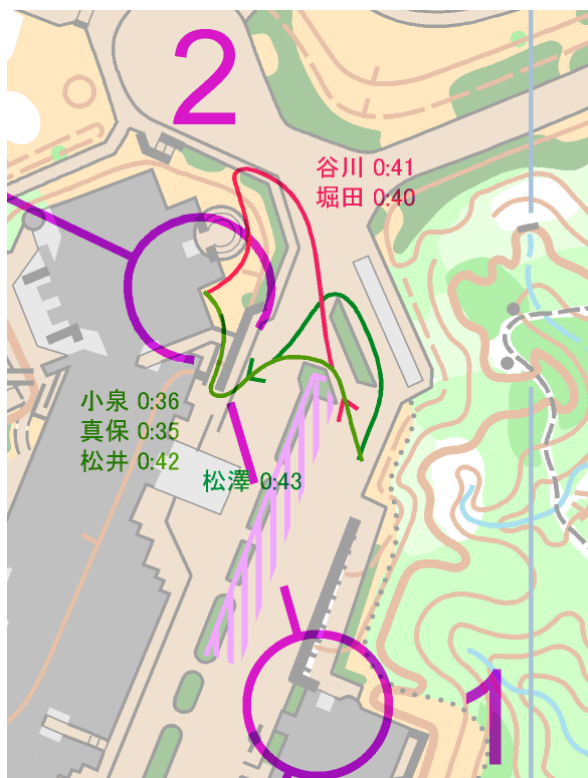


最もトリッキーなレッグをスタート直後に配置しました。プレススタートというスタート方式を採用したのはこのレッグを実現させるために他なりません。

結果、見事にベテランと若手でルートが分かれました。うっかり左に飛び出してしまうそうですが、コントロールは地下1階。小泉・松澤ルートが正解です。ここには記載されていませんが、加藤の31秒がトップラップです。

今回は結果的に谷川らのルートでもほとんど差は付きませんでした。このちょっとした読み違いが命運を分けるのがスプリントという競技の怖さでもあります。

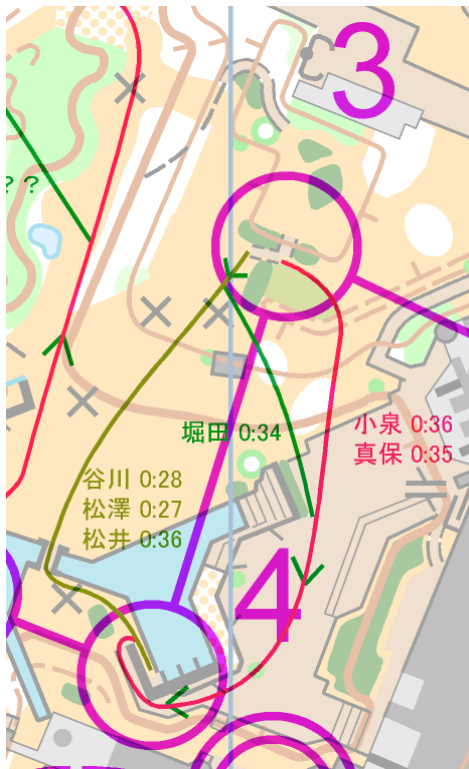
1→2



左ルートの柵は通行可能であるため、左が正解です。冷静に通行可能箇所を見極める読図能力を問いました。右に大きく回るのもシンプルですが、結果的にトップ選手で5秒ほど差が付いたようです。

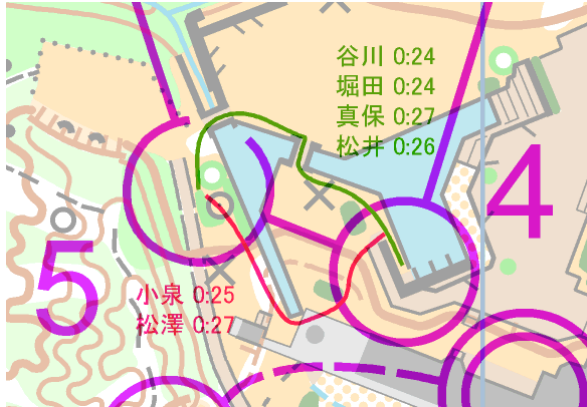
逆に言えば通行可能箇所の読み解きに時間がかかればすぐに吹き飛んでしまうような微差であるため、決断良く右に回るのも一つの戦略になります。

3→4



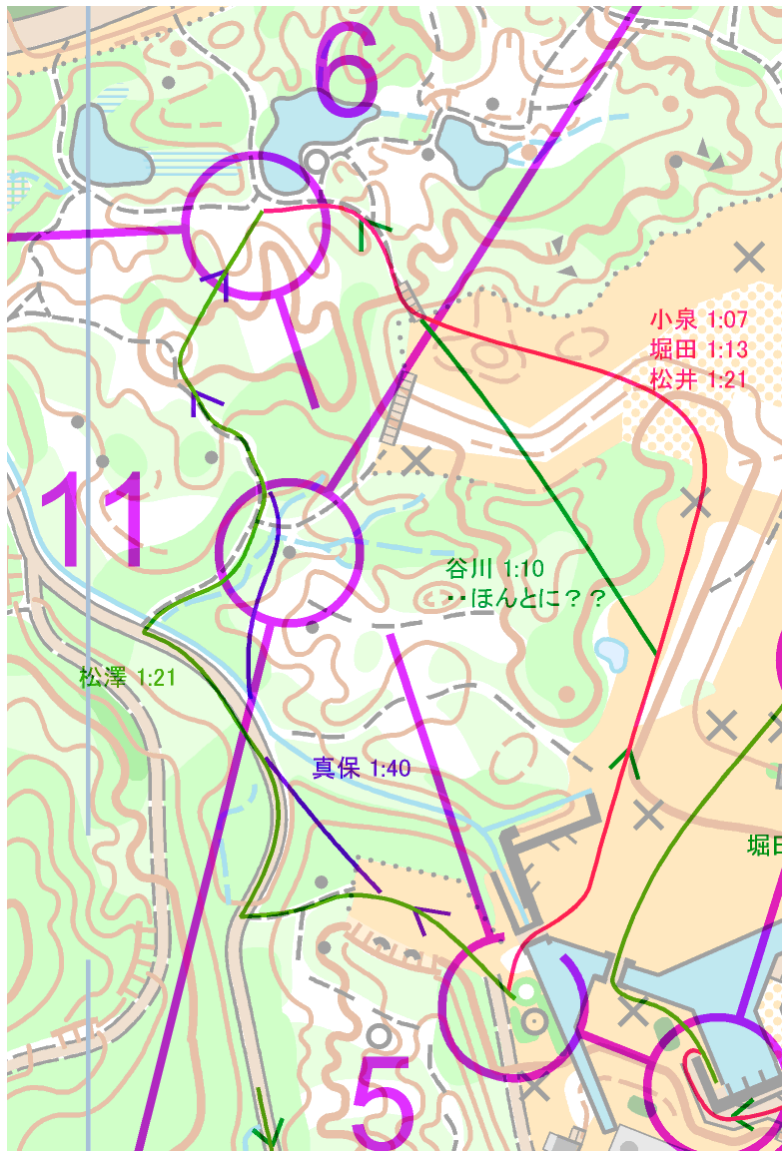
小泉・真保ルートが見えやすいレグですが、アタックで迂回が必要です。谷川らのルートだとシンプルで巡航も上げられるため結果的に 7~8 秒ほど差が付きました。通行不能の壁を利用してルートチョイスにアヤを付ける、典型的なスプリント競技のルートチョイスです。

4→5



池をどこから迂回するかを問いました。結果的にほとんど差は付かなかったようです。ルートそのものよりもルートを決断できるか、そしてショートレグの中で頻繁に角度が変わるのを高速で走り切れるかが鍵でしょう。トップ層ではそこで差が付くことはありませんでした。

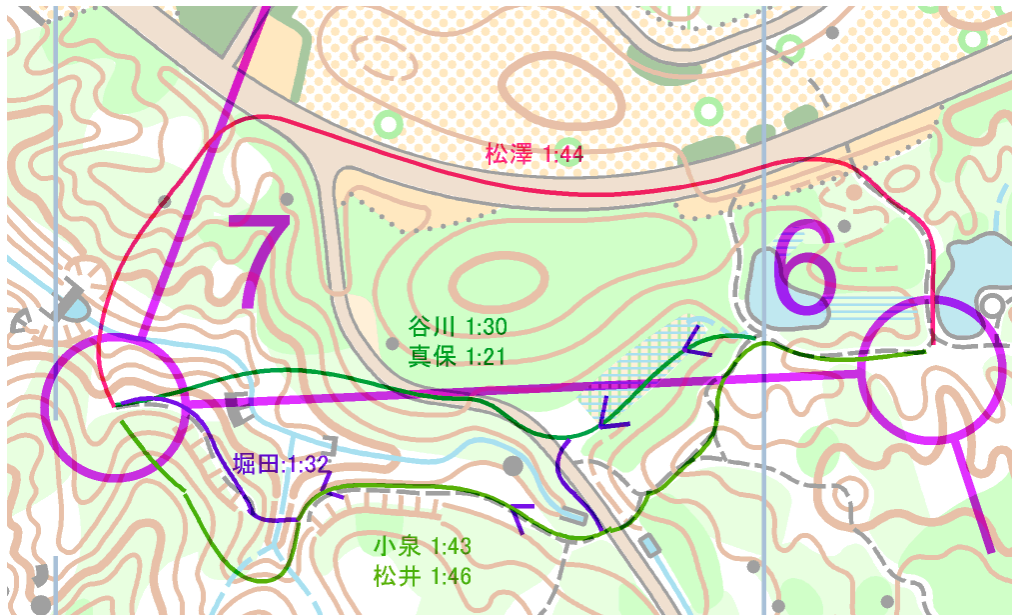
5→6



松澤ルートは道の乗り換えが多く登りもあることから、小泉らのルートの方が10秒ほど上回った模様です。真保は道から外れてしまいさらに20秒ほどロスが出ています。

谷川は小泉らのルートに近いが途中ヤブ山を切ったということになっています。これでミスタイムなしなのですが、本当にこのルートなのかには信じがたい。もし本当なら植生表現がおかしい可能性があります。

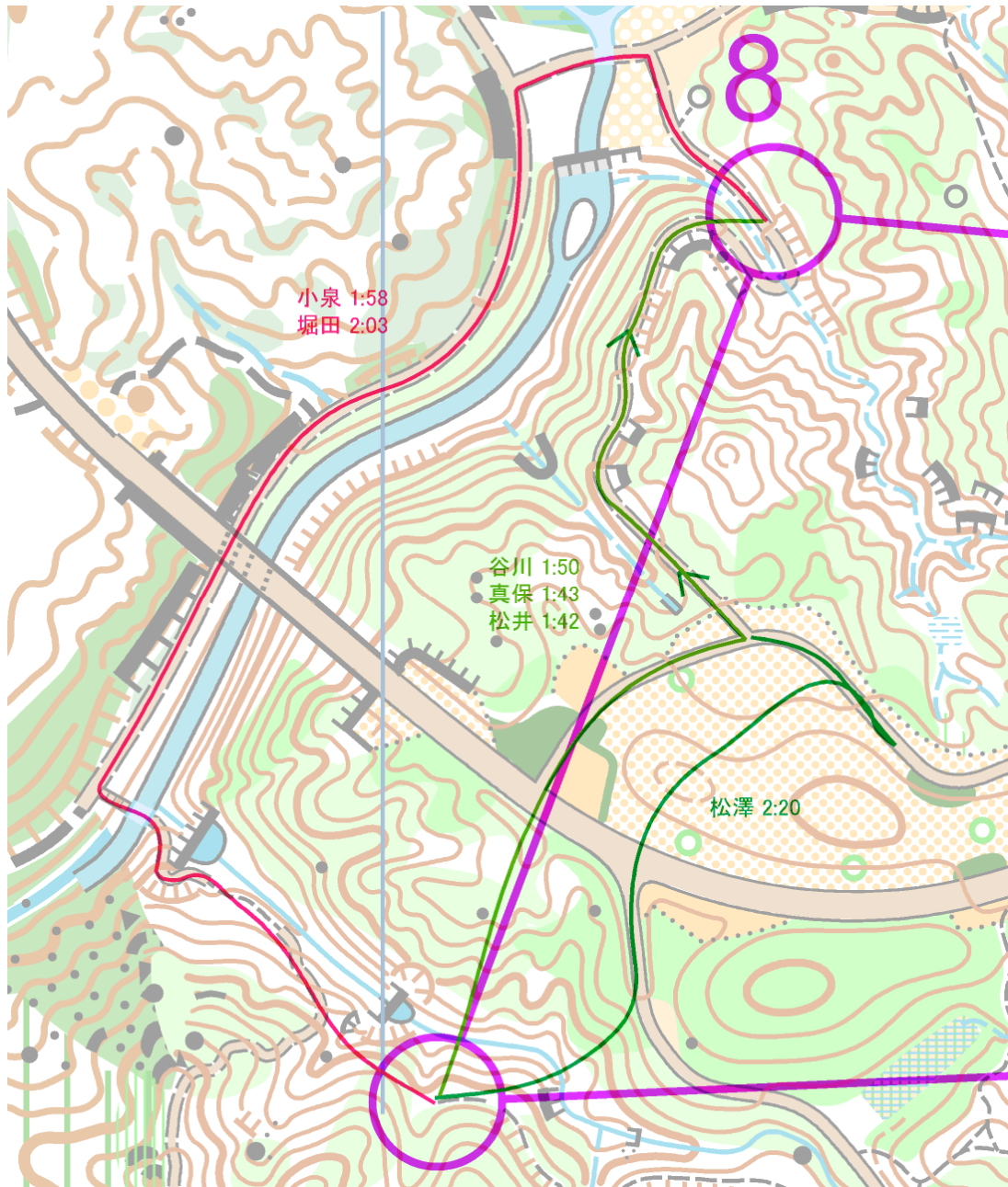
6→7



プランナーの想定を裏切ったレグその 1 です。実はこのレグは単なる繋ぎで、まさかルートが分かれるなんて考えもしませんでした。そしてその想定になかった谷川・真保ルートがトップ。しかしながら、これがトップになるということは、前半にあるオープン湿地がそれほどひどくはなかったということでしょうか。もしそうだとしたらマップのミスです。申し訳ありません。

プランナーの意図は前半が小泉・松井ルートでアタックは堀田ルートというものでした。小泉・松井がミスタイムを計上しているのは、アタックの 6 番道に乗り損なったことも大きかったと思います。

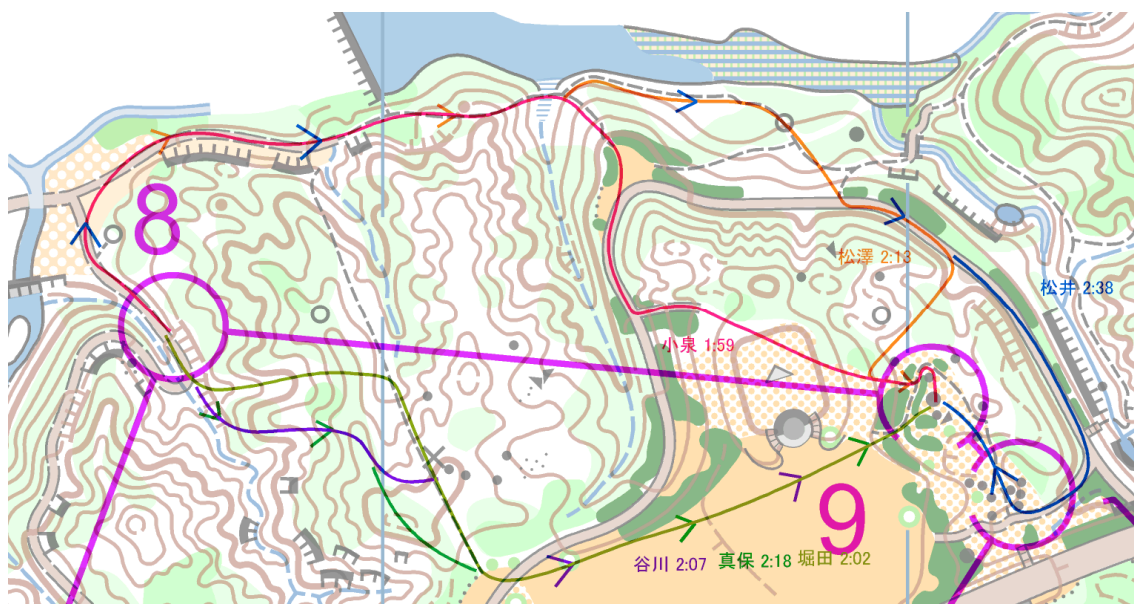
松澤ルートはさすがに距離もアップも増えるため、ベストルートではありませんが、それでもミスをした小泉・松井ルートとほぼ同タイムには収まっています。



プランナーの想定を裏切ったレグその 2 です。一見谷川らのルートが見えそうですが、冷静に小泉らのように左に迂回するのが正解・・・と思っていました。プランナーも。しかしなんと 15 秒から 20 秒ほど谷川らのルートが速いという結果がでました。

これが等高線間隔 2.5m のアヤでしょうか。脱出直後の登りが実はそこまで厳しくないのでしょうか。これが JSOM の等高線間隔 5m、1:10000 の地図だとしたら間違いなく左の方が速いと思います。JSSOM の等高線“感覚”を正しく理解することを教えられた気がします。

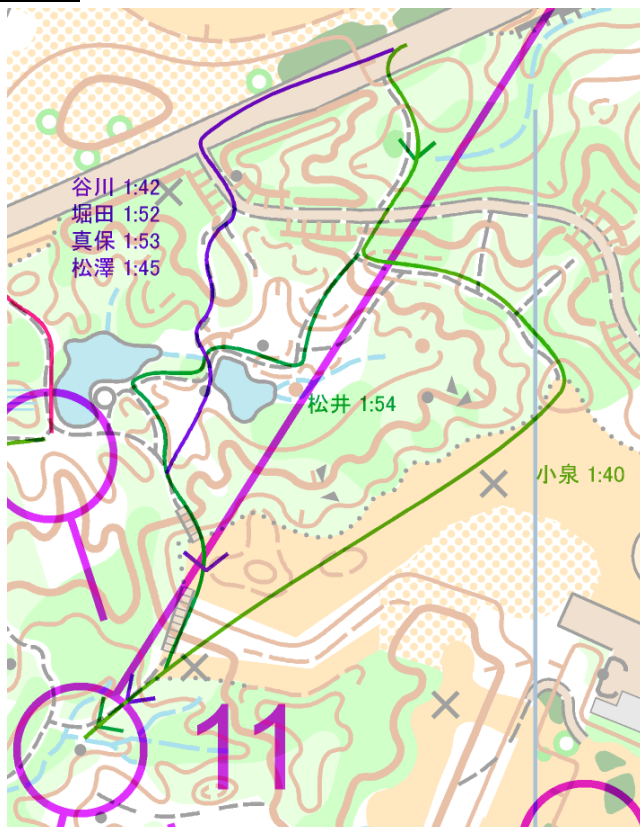
8→9



プランナーの想定は堀田ルートです。小泉・松澤らの北回りルートが道を使いやすく見えますが、途中細かいアップダウンがあり、必ずしも速くない。一方堀田らのルートの方が登り切った後の動きがシンプルで走れるという考えでした。

しかしトップは小泉。北回りを選びながらも、後半シンプルかつ走れるルートを選択し、アタックしていることが奏功したようです。

10→11



谷川らのルートが最短距離で実際に多くの選手が通っていますが、またしてもトップは小泉。2か所も鋭角に曲がるため選びにくいルートですが、最もシンプルです。

11→12



プランナーの意図は堀田らのルートですが、松澤・松井のルートが 10 秒前後上回っています。これもよりシンプルなルートが勝った格好です。

全体を通して

レース展開として見ると、入賞者内の順位は中盤 5→10 をどうこなすかが命運を分けました。逆に入賞争いをしながら脱落した結城・長縄らは終盤の 10→12 で大きくロスをしてしまいました。

ルートとラップから入賞者各人のレース展開に注目してみます。谷川・堀田は派手にあてたレグはそれほどないものの、すべてのレグでベターなタイムをそろえた結果好成績につながりました。対照的に小泉は光るラップをいくつもたたき出し地力の高さを見せつけました。6→7 のもたつきと 3→4・7→8 のルートミスが悔やまれるところです。真保は道から外れて林の中を進んだところで大きくロスを出してしまっています。ナビゲーション能力の高さが仇となった印象を受けます。松澤・松井は中盤の勝負どころでタイムロスが目立ちました。

このテレインでスプリントを組むというのがそもそも大きなハードルでしたが、それでも深い藪が通行不能の壁のような役割を果たすため、それなりに面白いルートチョイスを提供できる感触がありました。結果はトップ選手の素晴らしいアイデアにより、プランナーが想定した以上の多彩なルートで彩られ、大変興味深い結果になったと考えています。